

# 生徒一人一人が楽しさを実感できる学級づくり

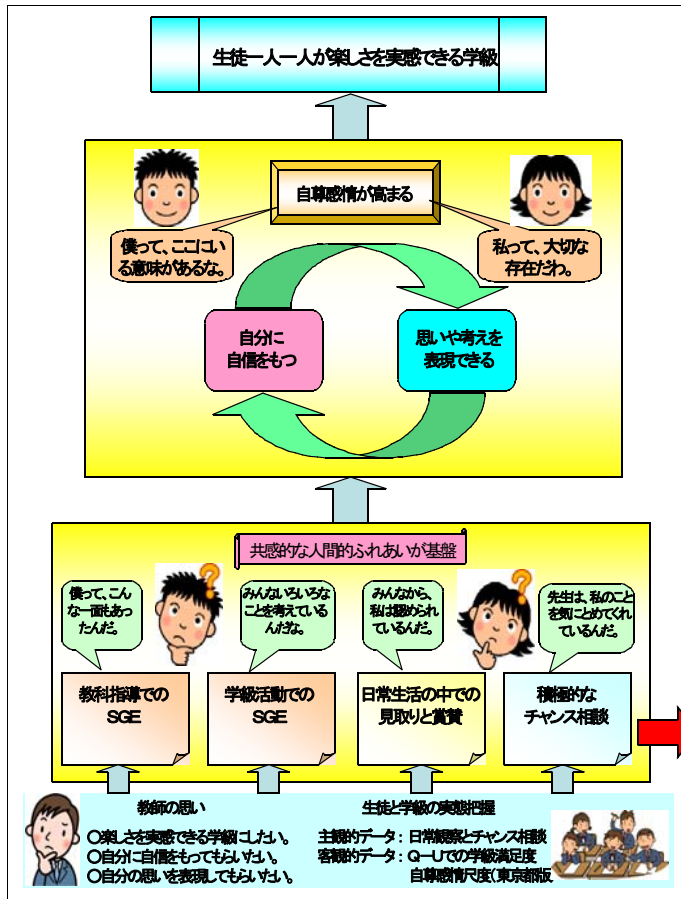
—自尊感情を高めるための「構成的グループ・エンカウンター」と「チャンス相談」を通して—

## 『研究の概要』

生徒指導・教育相談班 鯉沼 寛之(中学校教諭)

本研究は、生徒一人一人の自尊感情を高めていくことで、自分に自信をもち、自分の思いや考えを表現できるようになり、楽しさを実感できるであろうと考え、実践研究したものである。そのために、具体的には、教科指導や学級活動で互いのよさを認め合えるような構成的グループ・エンカウンター(以下、SGEと記す。)を取り入れた授業実践や、日常生活の場で生徒のよさの見取りと賞賛、積極的なチャンス相談で、信頼関係を深める活動などを行った。

## 『研究構想図』



## 『実践内容』

**【教科指導でのSGE】**

◎ **エクササイズは意見交流の場**  
 生徒同士のふれあいの場として、授業中の意見交流の場をエクササイズとして考えた。

◎ **エクササイズの内容や場面の形**  
 多様な考えを引き出す課題設定をした。単元の導入や既習事項を活用した課題解決場面でも実施。

◎ **シェアリングは学習内容と意見交流活動の両方**  
 振り返りシートを活用し、各自で学習内容と意見交流活動の両方を振り返る。その後、班ごとに意見交流活動について認め合う活動を行い、最後に全体で、学習内容の確認と意見交流での活動の両方を教師とのやりとりで振り返る。

**【教科指導でのSGE《具体例》】 単元: 比例(単元の導入)**

**エクササイズ: 「比例ってどんな関係だろう」**

- ①自分の考えをもつ。
- ②自分の考えを発表する。
- ③友達の考えを聞く。
- ④友達や自分の考えをまとめていく。

**シェアリング(学習内容) 比例の関係とは・・・**

- ①今日の学習で分かったことを書く。
- ②教師が全体で学習内容を振り返る。

**シェアリング(意見交流活動) お互いの認め合いや賞賛をする場**

- ①各自で意見交流活動でのかんまりやよさを振り返る。
- ②班ごとにお互いのよさかった活動や取組を認め合う。
- ③教師が全体で取組の様子を伝え、賞賛やアドバイスをします。

**【学級活動でのSGE】**

◎ **2学期の学級開き**  
 「私のいいところは○○です」という文を考え、新しい班の中で発表し認め合う活動を行った。

◎ **林間学校に感謝させて**  
 ・学級旗作成場面では、班ごとにそれぞれの学級旗のデザインの「いいところ探し」を行い、生徒の学級旗に対する思いを認め合う活動をした。  
 ・係別に自分の林間学校での生活のいいところを発表し、認め合う活動を行った。

◎ **合宿コンクールに関連させて**  
 ・本番前、パート内で個々のかんまりを認め合う活動やお互いのパートを認め合う活動をした。  
 ・コンクール終了後、「ありがとうカード」を書いて渡す活動を行った。パートごとに全員で渡し合い、その後、全員で渡し合った。振り返りは、カードを読んだ後ワークシートに感想を記入した。

**【日常生活の中での見取りと賞賛】**

◎ **今日の目標設定と確認**  
 日直が朝の会で目標を決め、帰りの会で振り返りを行う。担任も見取ったよいところを賞賛していく。

◎ **お掃除ピカピカカードの活用**  
 清掃の反省会で、取組の振り返りとともに、任意に生徒を一人選び、取組に対してのかんまりやよさを賞賛していた。

◎ **あなたの取組No.1の発表**  
 週末一週間の様子を振り返り、班の一人一人を生徒同士がまめあうため、担任が気が付かないよき取組についても認められることがあった。また、班の全員が認められる対象となるため、自分のよさを認めてもらうのだから友達もよさそう見つけようという意識が強くなった。

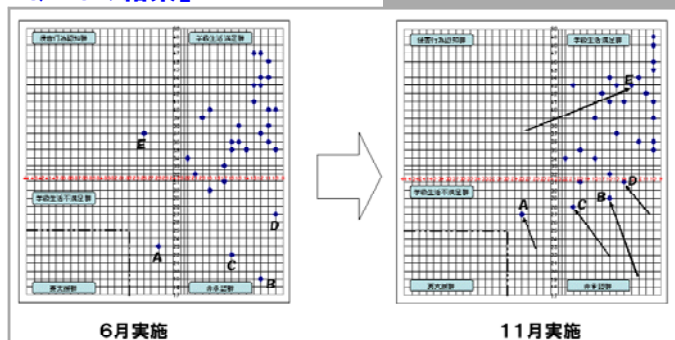
**【積極的なチャンス相談】**

◎ **ラポートの形成**  
 毎日、生活ノートでの生徒とのやりとりを通して、相互理解を深めていくことを意識していた。ささやかなコメントが生徒との関係を深めていきかけとなった。

◎ **一日一回の声かけ**  
 学級全員の生徒へ一日一回は声をかけるために、給食や清掃時だけでなく、休み時間を有効に活用した。休み時間にてできた教室におり、生徒の生活を観察するのと共に、「体調はどう?」「部活がはまっている?」などの声かけをした。また、その反応によって相談へつなげていった。

## 『Q-Uの結果』

抽出生徒の承認得点が増加!



学級全体のリレーションが深まり、生活に満足していると考えられる!

## 『研究のまとめ』

本研究において、自尊感情尺度やQ-Uでのデータの変容を見てみると、多くの生徒が自尊感情を高め、自分に自信をもち、自分の思いや考えを表現できるようになり、楽しさを実感できる学級になってきたと考えることができる。また、様々な実践から、共感してもらえるから話を、共感して認められるから自信になっている様子が見られた。実際に、Q-Uで非承認群に属していた生徒も、しっかりと話をしたり、友達のことをほめていたりする姿も見られた。以上のことから、安心する場や関係を作るためには、共感的な人間的ふれあいを基盤とする学級経営が必要不可欠であることを学んだ。今後も、共感的な人間的ふれあいを基盤とした学級経営を心がけ、生徒一人一人が楽しさを実感できる学級づくりを目指していきたい。

## 『自尊感情尺度の結果』

今回、「自己評価・自己受容」「関係の中での自己」「自己主張・自己決定」の3つの観点から自尊感情を構成する大きな柱と考え、それぞれの観点の高まりが自尊感情の高まりとらえ、変容を見た。(各観点とも4点満点)

	自己評価・自己受容		関係の中での自己		自己主張・自己決定	
	6月	11月	6月	11月	6月	11月
学級	2.89	3.05	3.17	3.31	3.08	3.20
A	1.75	2.13	3.00	3.14	2.86	3.00
B	2.25	3.00	2.14	2.43	2.43	2.71
C	2.75	3.38	3.00	3.43	2.86	3.29
D	2.00	2.50	2.00	2.71	2.14	2.29
E	2.00	2.63	3.43	3.71	3.14	2.86

学級、抽出生徒とも、各観点で平均値が増加!